

瀬戸内国際芸術祭 2022 — 秋会期開催 — 9月29日～11月6日まで

現代アートの秋を満喫 瀬戸内海の島々を巡ろう

古来より日本列島の大動脈として海上交通網が発達してきた瀬戸内海。高松港から直島・女木島・男木島・宇野、小豆島を船で旅しながら、その美しく穏やかな海に浮かぶ島々と潮風に、瀬戸内海の息づかいが感じられる。3年ぶりに開催された瀬戸内国際芸術祭は春と夏の会期を終え、秋会期が9月29日から始まる。コロナ禍対策を万全にした上で、島巡りと芸術祭の両方を楽しむ計画を練るのも楽しい

❖直島

直島の玄関口である宮浦港では、日本を代表するアート作家・草間彌生さんの作品「赤かぼちゃ」が訪れた人の目を引く。瀬戸内国際芸術祭実行委員会が主催し3年ごとに開催される「瀬戸内国際芸術祭」は、秋会期の開催に向けて、着々と準備が進められ、晴天の直島はプチ南国旅行のような雰囲気に入れられ、行く先々で出会う現代アートや風景が、訪れた人たちに海や島の魅力とぬくもり、元気と感動を与えてくれる。

❖女木島・男木島

高松港から男木島、女木島を結ぶ「めおん」は海上で行き交うと思わず目を奪われる赤と白のツートンカラーの珍しいデザイン。穏やかな瀬戸内海を航走する「めおん」の雄姿は、青い空と青い海を背景に引き立つ芸術品のようだ。

女木島は別名「鬼ヶ島」と呼ばれ、「鬼ヶ島大洞窟」という有名スポットがあり、島に点在する鬼のモニュメントが雰囲気を盛り上げる。

「海員だより」